

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援 きっずていくさくらんぼ
------	--------------------

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 10

回収数 8

	チェック項目	どちらとも いい/悪い				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	いいえ	わからない	いいえ		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6		2			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされていると思いますか。	8					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					
適切 な 支 援 の 提 供	5 ごどものことを十分に理解し、ごどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7 ごどものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	1				
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	7		1			
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1				
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6	1	1			
	19 子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1				
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1				
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	1				
	非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7		1		
24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。		4	1	3	お知らせがあったかもしれませんが、覚えていません	事前の周知だけでなく、実施の様子などをお伝えしていきます	
25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。		7	1				
26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。		5	1	2	事故・怪我等が発生した事がないためわかりません	定期的にマニュアルを発信し、ご安心いただけるよう努めます	
満 足 度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	8					
	29 事業所の支援に満足していますか。	8					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援 きっずていくさくらんぼ

公表日 2026年3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別訓練室2室とプレイルームを活用しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		規定に基づいた職員数と資格者を配置しています。	児童の特性等に合わせて十分な支援ができるように配置を調整していきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		障害の特性に応じ、段差を減らしたり視覚的表示やイラストカード、スケジュールの掲示などの配慮をしています。個別訓練室は掲示等を最小限にし刺激の無い空間を整えています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓清掃を徹底し、心地よい生活空間を維持しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		訓練室等を活用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		内部会議で目標設定と振り返りを行い、職員全員に伝達・共有しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表を通して意向や要望を伺い、業務改善に繋がっています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な面談や日々のミーティング等で職員の意見等を把握する機会を設け、業務改善に繋がっています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		法人の内部監査や各委員会活動にて事業所以外の職員に評価してもらい業務改善を行っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修・法人内研修に積極的に参加しています。事業所内研修も定期的実施し、資質向上を図っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムの作成及び公表の手引きを基に作成し公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的に児童や保護者にアセスメントを実施し、ニーズや課題の整理を行い、個別支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画会議と事前の意見交流で共通理解を図りながら、個別支援計画を作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々のミーティング等で随時共有し、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達検査の結果と日々の活動記録等のアセスメント双方を確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインで示す支援項目を選択し、発達や特性に応じた目標や支援内容を定め、その上で具体的な支援内容を精査し取り入れています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各担当者作成の素案をミーティングにおいて検討し、活動プログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		5領域分野をバランスよく取り入れた活動プログラムを立案に努めています。研修等から常に新しい活動を取り入れています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	発達や成長、特性に応じた個別活動や集団活動を組み合わせる計画を作成し支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日必ずミーティングを行い、支援プログラムの共有や役割分担等について確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点や改善点などを共有しているか。	○	職員全員で、その日の児童の様子や支援の振り返りを行い、気づいた点や改善点などを共有し記録に残しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援記録や業務日報の記録を徹底し、職員全員で支援の検証と改善を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの有無を会議で判断しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	相談支援事業所が開催する担当者会議等に児童発達支援管理責任者及び支援担当者が参加し、情報共有や支援の方向性の擦り合わせを行っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	地域の保健師、医療機関、障害福祉、幼稚園、学校等の関係機関と連携し、随時情報共有を行い支援体制を整えています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	併行利用を行い、インクルージョン推進の観点から支援を行うよう努めています。定期的に幼稚園・保育園との関係者会議を実施し、児童の様子や支援内容の情報共有を行い、相互理解を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	小学校の一日入学や入学前の引継ぎに参加し、就学児の情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	地域に児童発達支援センターはありませんが、市の担当者やスーパーバイザーと連携し情報提供をいただいています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		所外活動にて交流する機会を持ちましたが、多くはありません。地域の公園や公共施設等を利用しながら、他のこどもと交流する機会を設けていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や取り入れているシステム内でこどもの様子を伝え合っています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	事業所が開催する研修会や定期的の実施している座談会にて、学び機会や情報提供の場を設けています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時や面談時に説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	定期的にモニタリングを行い、生活に対する意向やご要望等を伺っています。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	契約時や定期的な面談時等に個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、同意を得ています。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	子育ての悩みや不安等の相談があった場合は都度対応し、必要な助言等を行っています。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		定期的に座談会を開催し、保護者同士で交流する機会を提供しています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		マニュアルに基づき迅速に対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HUGシステム内で様々な情報を発信しています。法人のHPやSNS等では、行事やお知らせを積極的に発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の規約を厳守し厳重に管理しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		HUGシステム内のサービス提供記録に写真を掲載する等の工夫を取り入れ、分かりやすい情報伝達に努めています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人で実施するイベント等の周知活動や地域の高齢者施設訪問を実施しています。	地域住民と繋がりをもち、顔の見える関係性を築きながら、開かれた事業所運営に努めます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し職員全員で読み合わせを実施し、年4回の訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的に勉強会を実施しています。非常災害に備え、定期的に必要な訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者を通じ、子どもの状況を随時確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者を通じ、食物アレルギーの有無を確認しています。	医師の指示書を提示された場合は、それに基づいて対応します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、随時必要な研修や訓練を行っています。毎月1回事業所内点検を実施し、安全管理を徹底しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急時における子どもの安全確保に関して、事前に保護者と共有しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		支援終了後は、職員全員でヒヤリハットを共有しています。月に1回ヒヤリハットミーティングを実施し、再発防止に向けた対策を協議しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待セルフチェックや研修会の参加を必須とし、職員全員の意識や対応力の向上を図っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		法人の委員会や事業所内で協議し決定しています。契約時に保護者に説明を行った上で同意をいただき、個別支援計画にも記載しています。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人北海道光生舎 児童発達支援 きっずていくさくらんぼ		
○保護者評価実施期間	2026年1月7日 ～ 2026年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年1月30日 ～ 2026年1月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	養護学校や療育センターと連携し、個別療育を行っています。	リハビリや訓練に同行し、同じ内容を個別療育で取り入れられるように工夫しています。	
2	関係機関や地域、保護者との連携。	社会福祉協議会との合同行事など、地域との交流を積極的に行っています。 保護者との連携はHUGシステムを活用し、日々情報共有を図っています。また茶話会等の行事にて保護者同士の繋がりを持つきっかけや、育児相談の助言等を行う場としています。	きょうだい同士や地域の子どもと関わる機会を増やしていきたいよう努めます。
3	研修の仕組み。	法人内組織による研修、芦別市教育委員会スーパーバイザー(星槎大学西永副学長)による研修、系列事業所同士で行う研修など。	事業所内の研修を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別課題中心の活動のため、集団の中での児童の課題を見る機会が少ないです。	一度に来所する児童数が少ないため。	個々の利用時間内で個別療育と小集団療育の両方を実現するプログラムを実施していきます。
2	地域の住民と共に過ごす時間がない。	地域行事と営業日が合致しない事が多い。	事業所活動と地域ボランティアが連携するなど新たな取り組みを考えていきます。
3			

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス きっずていくさくらんぼ

公表日 2026年3月31日

利用児童数 36名

回収数 24名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	24					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	2				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	1				
保護者 への 説明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	3	2	4		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	2				
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	22	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	2			普段から許容範囲の広さを感じています。みなさんでお出掛けをする際、自分の思いを込めようとした。他のお友達に迷惑がかかることではないので大丈夫かと思いましたが、スタッフさんに確認すると予想通り快い返事が戻ってきて、改めて懐の深さを感じました。ありがたい限りです。	今後も気兼ねなくご相談いただける事業所を目指して保護者のみなさまのお声を頂戴していきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	4		1		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	2				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	1				
非常時 等の 対応	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24					
	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1		3		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1		3		
満足 度	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23			1		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	1		3	事故も怪我もしていないのでわからない	マニュアルやフローを定期的にご覧いただき、ご安心いただけるよう事業所運営を行っていきます
	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	23	1				
満足 度	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	21	3				
	29 事業所の支援に満足していますか。	23	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス きっずていくさくらんぼ		2026年3月31日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個室訓練室を有効に活用し、適宜スペースを確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		規定に基づいた職員数と資格者を配置しています。	その日の児童に応じて柔軟に調整できる体制づくり
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		障害の特性に応じ、段差を減らしたり視覚的表示やイラストカード、スケジュールの掲示などの配慮をしています。	構造化された環境設定にまだ不十分さがあるため、今後改善していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓清掃を徹底し、心地よい生活空間を維持しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて訓練室を使用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		内部会議で目標設定と振り返りを行い、職員全員に伝達・共有しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表を通して意向や要望を伺い、業務改善に繋げています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な面談や日々のミーティング等で職員の意見等を把握する機会を設け、業務改善に繋げています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		法人の内部監査や各委員会活動にて事業所以外の職員に評価してもらい業務改善を行っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修・法人内研修に積極的に参加しています。事業所内研修も定期的を実施し、資質向上を図っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムの作成及び公表の手引きを基に作成し公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的に児童や保護者にアセスメントを実施し、ニーズや課題の整理を行い、個別支援計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全員が個別支援計画会議に参加し、共通理解を図りながら、個別支援計画を作成しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々のミーティング等で随時共有し、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		医療機関や児相で受けた発達検査の結果を共有しています。日々の活動記録や取り組んだ課題をインフォーマルなアセスメントとしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインで示す支援項目を選択し、発達や特性に応じた目標や支援内容を定め、その上で具体的な支援内容を精査し取り入れています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ミーティングにおいて職員全員で意見を出し合い、活動プログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		5領域分野をバランスよく取り入れた活動プログラムを立案に努めています。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		発達や成長、特性に応じた個別活動や集団活動を組み合わせ計画を作成し支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日必ずミーティングを行い、支援プログラムの共有や役割分担等について確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点や改善点などを共有し記録に残しているか。	○		職員全員で、その日の児童の様子や支援の振り返りを行い、気付いた点や改善点などを共有し記録に残しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録や業務日報の記録を徹底し、職員全員で支援の検証と改善を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの有無を会議で判断しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「地域交流の機会の提供」について、十分な機会の提供ができていない現状があります。	社会資源の活用や地域行事への参加を通して、交流が図られるように工夫していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		支援者の一方的な指示ではなく、児童の意見や選択によって活動が行えるよう声掛けを行っています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所が開催する担当者会議等に児童発達支援管理責任者及び支援参加者が参加し、情報共有や支援の方向性の擦り合わせを行っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健師、医療機関、障害福祉、幼稚園、学校等の関係機関と連携し、随時情報共有を行い支援体制を整えています。	
関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		随時連絡を取り合い、情報共有を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて関係者会議等を開き、園での集団生活の様子などを情報共有しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当する児童はいませんが今後、移行する場合は、情報を提供していきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		地域に児童発達支援センターはありませんが、市の担当者と定期的に情報共有の場を設け、保護者支援を含めたアドバイスを受け、事業所の支援に繋げています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			所外活動にて交流する機会を持ちましたが、多くはありません。地域の公園や公共施設等を利用しながら、他のこどもと交流する機会を設けていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		児童部門はありませんが、勉強会などに参加させていただいています。	児童分野以外の部会も参加できるよう願っています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や取り入れているシステム内でこどもの様子を伝え合っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		事業所が開催する研修会の参加を呼びかけ、学ぶ機会や情報提供の場を設けています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や面談時に説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的にモニタリングを行い、生活に対する意向やご要望等を伺っています。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		契約時や定期的な面談時等に個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、同意を得ています。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		子育ての悩みや不安等の相談があった場合は都度対応し、必要な助言等を行っています。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		「将来の進学」「障害年金」をテーマにした座談会を開催し、保護者同士で交流する機会を作りました。	きょうだい同士で交流する機会をつくることのできませんでした。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		マニュアルに基づき迅速に対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HUGシステム内で様々な情報を発信しています。法人のHPやSNS等では、行事やお知らせを積極的に発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の規約を厳守し厳重に管理しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		HUGシステム内のサービス提供記録に写真を掲載する等の工夫を取り入れ、分かりやすい情報伝達に努めています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人で実施するイベント等の周知活動や地域の高齢者施設訪問を実施しています。	町内会や地域住民と繋がりを持ち、顔の見える関係性を築きながら、開かれた事業所運営に努めます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し職員全員で読み合わせを実施し、年4回の訓練を実施しています。	保護者への周知を随時進めています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的に勉強会を実施しています。非常災害に備え、定期的に必要な訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者を通じ、こどもの状況を随時確認しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者を通じ、食物アレルギーの有無を確認しています。	医師の指示書を提示された場合は、それに基づいて対応します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、随時必要な研修や訓練を行っています。毎月1回事業所内点検を実施し、安全管理を徹底しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急時におけるこどもの安全確保に関して、事前に保護者と共有しています。	計画に基づいた取り組み内容の周知を随時進めています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		支援終了後は、職員全員でヒヤリハットを共有しています。月に1回ヒヤリハットミーティングを実施し、再発防止に向けた対策を協議しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待セルフチェックや研修会の参加を必須とし、職員全員の意識や対応力の向上を図っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		法人の委員会や事業所内で協議し決定しています。契約時に保護者に説明を行った上で同意をいただき、個別支援計画にも記載しています。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人北海道光生舎 放課後等デイサービス きっずていくさくらんぼ		
○保護者評価実施期間	2026年1月7日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2026年1月30日		2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	養護学校や療育センターと連携し、個別療育を行っています。	リハビリや訓練に同行し、同じ内容を個別療育で取り入れられるように工夫しています。	学校見学を計画していきます。
2	関係機関や地域、保護者との連携。	社会福祉協議会との合同行事など、地域との交流を積極的に行っています。 保護者との連携はHUGシステムを活用し、日々情報共有を図っています。また茶話会等の行事にて保護者同士の繋がりを持つきっかけや、育児相談の助言等を行う場としています。	きょうだい同士や地域の子どもと関わる機会を増やしていきたいよう努めます。
3	研修の仕組み。	法人内組織による研修、芦別市教育委員会スーパーバイザー(星槎大学西永副学長)による研修、系列事業所同士で行う研修など。	事業所内の研修を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別課題中心の活動のため、集団の中での児童の課題を見る機会が少ないです。	一度に来所する児童数が少ないため。	個々の利用時間内で個別療育と小集団療育の両方を実現するプログラムを実施していきます。
2	地域の住民と共に過ごす時間がない。	地域行事と営業日が合致しない事が多い。	事業所活動と地域ボランティアが連携するなど新たな取り組みを考えていきます。
3			

# 社会福祉法人北海道光生舎 児童発達支援・放課後等デイサービス きっずていくさくらんぼ支援プログラム



## 【基本方針】

- 1)遊びを通して楽しみながら生活習慣の獲得を目指します。
- 2)様々な人との関わりから、コミュニケーションスキルの向上を目指します。
- 3)一人ひとりの思いを受け止め安心して過ごせる居場所を提供します。
- 4)ご家族とともにお子さまの成長を喜び、より豊かで安心できる生活が送れるようサポートします。
- 5)地域活動に参加し、様々な人と繋がりを持ちながら生活する機会を作ります。

営業時間:8:30~17:30  
送迎実施の有無:有り

### 健康状態

#### 【健康・生活】

挨拶や身辺自立など日常生活に必要なスキルを身につけられるよう支援します。  
(ソーシャルスキルトレーニング・手洗いチェッカー・買い物体験・クッキングなど)

### 心身機能・構造

### 活動

### 参加

#### 【運動・感覚】

粗大運動・微細運動を取り入れ、体の使い方や力の入れ方などが獲得できるように支援します。  
(トランポリン・スイングホース・ハンモック・サーキット・製作・ひも通し・型はめ・砂遊びなど)

#### 【認知・行動】

認知や感覚の特性に合わせたツールを活用し、自己表現や行動がスムーズにいくよう支援します。  
(ビジョントレーニング・カード遊び・色分けゲーム・ジェスチャーゲームなど)

#### 【言語・コミュニケーション】

まずは職員と1対1で、発展として集団遊びを通して様々な人と関わりながら、言葉やコミュニケーションスキルの向上を支援します。  
(伝言ゲーム・マッチング遊び・聞き取りワーク・集団ゲームなど)

#### 【人間関係・社会性】

他者と過ごす楽しさを味わいながら、相手を認める気持ちや協調性を育みます。  
(ソーシャルスキルトレーニング・集団遊び・地域との交流・外出レクリエーションなど)

### 個人因子

### 環境因子

#### 【主な行事】

法人夏祭り・クリスマス会  
きっずフェスタ・お楽しみ会

#### 【家族支援】

育児に関する悩みや困りごとに対する助言やサポート・勉強会

#### 【移行支援】

幼稚園・保育所・学校・就労先との連携

#### 【地域支援】

関係機関との連携・地域資源の活用・高齢者施設訪問

#### 【職員の質の向上】

内部研修の実施・外部研修の参加・法人委員会への参加